

# 生涯学習により



## 夢心～「夢ふくらます『はる』」……ふくらむ夢と希望

～かみしほろの健やかな育ち～

年間テーマ 「かみしほろの地域力を見つめ直す」

### 「地域力」を取り上げるにあたって

三、「情報委員のおすすめスポット」として、情報委員がかみしほろの魅力を紹介します。

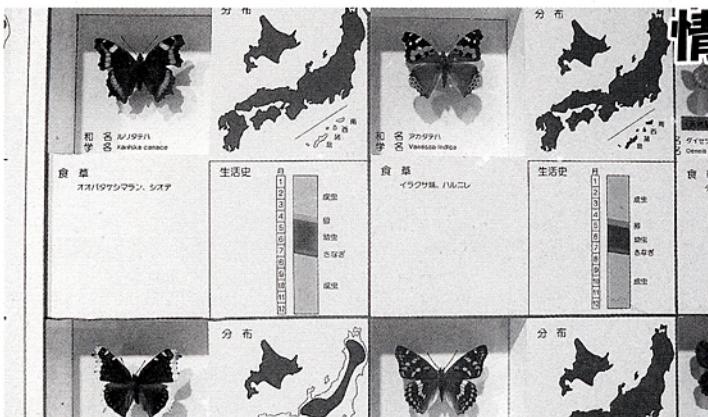
二、人材、自然、歴史、産業など、かみしほろのあらゆる「宝」を地域力と捉えて、各号で地域力を紹介する特集を組み、情報の発信をしていきます。

一、町民の皆さん自身が、積極的に「地域力」を高め、また活用していくことができるよう情報発信・編集に努めます。

これらの全てを「地域力」として捉え、次のような編集方針で町民の皆さんへ情報発信をして参ります。

約七割を国立公園が占めていると、この町で生活する多彩な人材があります。かみしほろには、昨年開町八十周年を迎えた歴史があり、面積のいう豊かな自然、そして何より、この町で生活する多才な人材があります。

今年度の生涯学習だよりは「かみしほろの地域力を見つめ直す」を年間テーマとして取り組んで参ります。



チョウの標本が並ぶ第2展示室。大雪山のチョウが一斉に並ぶ展示は壮観です。

### 情報委員のおすすめスポット

ひがし大雪博物館は、大雪山国立公園の自然をより多くの人に知つてもらい、後世へ伝えようと昭和四十五年に開館しました。今回は博物館内の展示を紹介します。ヨウ」という展示があります。これは横三メートル、縦一メートルの中に、大雪山で見ることができます。ヨウ八十種類の標本を展示したもので。また、分布域や食草の種類、生活史の情報が標本とセットになっていますので、分かりやすく、とても見ごたえのある展

#### 「大雪山のチョウ」

示です。じっくり眺めていると、良く見るチョウも凛々しく、格好良く思えます。一度じっくりと展示をご覧下さい。新たな発見があるかもしれません。

(担当—乙幡)

### 平成24年度の生涯学習情報委員



後列左から乙幡委員、鶴下委員、根本委員  
前列左 斎藤委員長、右 大友副委員長

皆さまのもとへも、取材のお願い、寄稿のお願いに伺うかも知れません。ご理解・ご協力をお願いします。

1年間、5名の情報委員で活動をして参りますので、どうぞよろしくお願いします。

# 特集 “地域力”を活かした学校の取り組み

## ◇上士幌中学校の“地域の人材力”を活用した授業◇



熱心に指導する物産交易振興会の  
吉田守会長（H24年2月）

上士幌中学校では、平成二十二年度から、特別支援学級の「生産」の授業に、地域の方を講師に招いて活動を行っています。農産物を育てる活動、陶芸教室、そして木工品の製作活動などです。特に木工品の製作は、毎年二月に帶広市の藤丸デパートで行われている即売会に出品すること目標に、年間五十時間数の活動を行っています。

木工品を製作するためには、専門的な知識と技術が必要となります。そこで講師を担つていているのが、上士幌町物産交易振興会の皆さんです。建具職人や大工、そして趣味で木工を極めている「匠」たちが、生徒の指導を一手に引き受けています。

昨年は、木のおもちゃ作りからスタートして、専門的な技術が必要となる椅子やテーブルの製作も行いました。生徒達は、わからないうちに質問をして、解決していきます。

## ◇上士幌小学校の“地域ぐるみの子どもの居場所”づくり◇



将棋同好会会員の指導のもと、対局に夢中の上士幌小学校の児童（H24年1月）

子ども（特に小学生）が安心して有意義な放課後の時間を過ごすことができる地域づくりは、子育て支援の重要な活動のひとつとなります。

そこで、上士幌小学校では、放課後に子どもが楽しみながら、安心して時間を過ごせるように、昨年から地域の方を招いた「子どもの居場所づくり事業」に取り組んでいます。昨年度は、将棋同好会の会員を講師に迎えた「将棋教室」、カルタ愛好者を講師に迎えた「カルタ教室」、青年会の会員を講師に迎えた「工作レクリエーション」、元教員の方を講師に迎えた「そろばん教室」を行いました。

地域の大人が日常的に活動していることや、特技を活かして、子どもたちに有意義な時間と、安心して過ごせる放課後づくりのために、今年度も実施を予定しています。



上土幌の魅力について語る福澤さん  
(H24年4月)

## ◇北居辺小学校の“地域を見つめる”授業◇

北居辺小学校では、毎年、地域住民の力を借りて、地域を見つめる授業を行っています。近年では、基幹産業である農業や、地域の歴史について、地域の方々を講師に招いて授業が行われています。農業を営む方は、農作業の講師になつたり、地域の歴史をよく知る方は歴史について講話をしたり、多様な取り組みが展開されています。児童がまちをより深く知り、また魅力を知るための一環として行われています。



年末に行われた“餅つき”には、多くの地域の方にお世話になりました (H23年12月)

## ◇萩ヶ岡小学校の“地域統ぐるみ”の活動◇

萩ヶ岡小学校では、例年、運動会で消防団第3分団の協力で放水体験を行っています。他にも、学校農園での農家さんの協力、地域のお母さん達による「萩小まつり」での料理提供、そば打ち名人によるそば打ち体験など、様々な活動で地域の人材が活かされています。例えば昨年末の餅つき体験は、地域のおばあちゃんが主体となつて、保護者の方々の協力も得ながら、子ども達が貴重な体験をさせて頂くなど、地域の方々が日常的に学校活動に協力することで、学校を盛り上げています。



昭和40年代のぬかびら源泉郷の様子について語る二瓶町内会長 (H23年7月)

## ◇糠平小学校の“19(トーク)の日”◇

糠平小学校では、十九日を「トークの日」として、ぬかびら源泉郷に住む方が講師として、ぬかびらの自然や産業、歴史のことや、子どもたちへのメツセージなどの講話を行っています。これはリレー形式で、講師が次の講師を紹介する方法となっています。昨年は、四回行いました。昔の温泉街の様子が語られたり、ぬかびら周辺の写真を見ながら魅力について語り合つたり、そして何より、子どもたちへ心のこもったメツセージも送られます。子どもたちも、地域の大人たちの思いをしっかりと受け止めて、真剣に聞き入っているようです。

◇北門小学校 “学校農園”活動◇



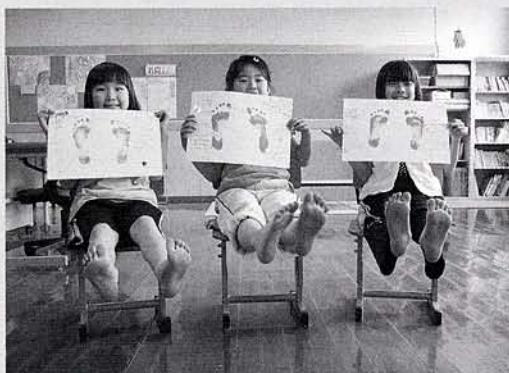
毎年秋に行っている収穫祭には、多くの地域の方が駆けつけてくれます（H23.10）

北門小学校では、スキー学習の時に児童のお父さんたちが指導をしたり、地域の方が気球を上げて搭乗体験をしたり、学校農園の活動で児童と一緒に作業をしたりと、幅広い活動を行っています。

特に学校農園の活動では、児童は春の種まきから秋の収穫までの一連の作業の中で、地域の方々とともに食への理解を深め、基幹産業である農業を体感しています。

収穫祭では、採れた野菜を子どもと大人が協力して調理・試食をして、作物が採れる喜びを体感しています。

◇NPOひがし大雪ガイドセンターによる“自然環境学習”◇



活動の最後に、児童全員で製作する「足の裏スタンプ」。

上士幌町内の全ての小学校・中学校では、NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンターのスタッフが講師になり、まちの自然を活かした活動を実施しています。小学一年生から中学生まで、系統的に学習を進めています。例えば、小学一年生は、「はだしで歩こう」というプログラムがあります。これは、学校林などを、裸足で歩いて、足の裏で自然を感じるプログラムです。この活動の最後には、全員が自分の「足の裏スタンプ」も作ります。



歩くスキーを使った森林探検では、動物の痕跡から冬の暮らしを知る“アニマルトレッキング”をしながらの探検です。

中学年は、学校林の草刈り作業や巣箱の調査や維持、航空公園で山菜採りのマナーを学んだり、葉っぱのスタンプ作りなどをします。

高学年になると、ニジマス釣りに出かけたり、居辺川周辺で十勝石を探したり、幌加まで行き森林再生塾も開きます。冬には、糠平湖でワカサギ釣りや歩くスキーを使つた冬の森の探検を行います。

このように、子どもたちが五感で上士幌の自然を感じ、楽しむ中で感性を磨き、また自然と共に人生を歩むことができるような学びが実施されています。